

男性保育者の現状と課題についての一考察 －施設長及び男性保育者への質問紙調査から－

長谷 秀揮*

A Study on the Current Situation and Issues of Male Childcare Workers
-From a questionnaire survey to facility managers and male childcare workers-

Hideki Hase

本稿では、男性保育者の現状と課題を把握するため、本学の近郊各市における保育現場の施設長、及び男性保育者に質問紙調査を実施して分析をおこない考察を加えた。具体的には本学の卒業生を多く受け入れている保育所（園）及び、認定こども園の施設長、つまり保育・幼児教育の現場の責任者に質問紙調査を実施して、男性保育者の割合が保育の現場において増えることについての是非、並びに養成校で学修し習得しておいて欲しいと考える内容やスキルについて、男性保育者の意義や役割を含めて具体的に尋ね現状を把握し、分析し考察を加えた。そして、実際に園で乳幼児の保育に携わっている男性保育者に質問紙調査を実施して、意義やメリットを課題等も含めて尋ね、さらに保育者効力感調査も併せておこない、分析し考察を試みた。結果、多くの施設長が男性保育者の増加を望んでいることが判り、また男子学生及び、養成校に期待し望む学修内容や習得スキルに関しての課題が明らかになった。そして男性保育者の多くが、保育者としての効力感を十分に持ち勤務し、自信をもって保育にあたっていることが明らかになった。

※本稿では保育所（園）の保育士及び認定こども園の保育教諭を保育者とする

Key words: ジェンダー平等、男性保育者の役割と機能、保育者効力感、男女共同参画社会

1. はじめに

保育所（園）及び、認定こども園（以下、園と記述する）においては、我が国の実際の状況として女性保育者が圧倒的多数であり、園の職員構成の割合は、約96%が女性で男性は約4%（独立行政法人福祉医療機構 2019）にすぎない。持続可能な社会を実現するためのグローバルな取り組みであるSDGsにおいても、ジェンダー平等の実現が目標の一つに掲げられているが、保育・幼児教育を過去において主に女性が担ってきたという我が国の歴史的背景もあり、保育者に限らず施設長以下、男性職員が皆無の園も多いという実態がある。このような状況、つまり園におけるジェンダーバランスが女性に偏っていること自体が、保

育・幼児教育は、女性の仕事とする固定的な役割分業意識が旧態依然として根強い職場であることを示し、そして男女共同参画社会の実現に向けての種々の施策や取り組みが進められてきているが、進捗状況が総じて芳しくない状況が実態としてあるといえる。

OECD加盟国であるノルウェーにおいては、保育・幼児教育分野のジェンダー平等を促進するために、一つの方策として男性保育者の採用を促進し、保育職に占める男性割合を少なくとも20%とする目標を国家戦略の一環として制定し、実現に向けて様々な取り組みを推進している¹⁾。同じ加盟国であるドイツやイスラエルにおいても、保育職への男性参加を促進する施策が策定されて、多様な内容の取り組みが次々と推進され実施されている。

* 四條畷学園短期大学 保育学科

子どもの権利条約に掲げられている「子どもの最善の利益」を追求するならば、我が国においてもジェンダー平等の観点はもちろん重要だが、さらに保育・幼児教育の現場における人的環境としての男性保育者の役割と機能を捉え直し吟味して、改めて評価することが必要であるといえる。単親家庭や外国人家庭の増加をはじめとする、子どもの生活基盤である家庭とその家族形態の多様化や、現場の喫緊の課題である保育・幼児教育の質の向上等の今日的な課題に対応するためにも、男性保育者の役割や機能は、ますます増大していると考えられるのではないだろうか。特に子どもを取り巻く様々な環境の中でも、とりわけ身近な人的環境は、乳幼児にとって大きな影響を受けるため極めて大切なものであり、その中でも保育者は健やかな成長発達に直接的にかかわる存在である。人的環境がより多様性豊かになることにつながり、いっそう多角的に子どもをみることに寄与できる、等を男性保育者の重要な役割や機能の一つとして認識し捉えるならば、女性保育者に加えて男性保育者が全ての園に必要不可欠な存在であるといっても、決して過言ではないといえよう。

2. 研究の目的

本研究では、男性保育者の現状と課題について、本学の近郊各市における男性保育者と園の実際の状況を把握し、そして分析して考察を加えることを試みること、並びに結果を保育者養成にかかわる授業やガイダンス等での教授内容や指導、助言などに反映し活かすことを目的とした。そのため、保育・幼児教育現場の施設長及び、男性保育者に質問紙調査を実施することとした。

3. 研究の方法

研究方法としては、本学の卒業生を受け入れていただいている保育所（園）及び、認定こども園の所長と園長、つまり現場の責任者に質問紙調査を2021年10月下旬から11月上旬にかけて実施した。男性保育者の割合が、保育・幼児教育の現場において増えることについての是非、並びに養成校で学修し習得しておいて欲しいと考える内容やスキルについて男性保育者の意義や役割を含め、具体的に尋ね現場の実情を把握した。そして、同じく園で実際に保育・幼児教育に携わっている男性保育者に質問紙調査を実施して、男性保育者の

意義やメリットを課題も含めて尋ね、さらに保育者としての効力感についても尋ねた。

4. 結果と考察

【1】園の施設長（所長、園長）への質問紙調査についての結果と考察

本学の近隣（大阪市を含む隣接7市）の園45ヶ所に郵送し、35園（女性27人男性8人）の施設長より回答をいただき、回収率は77.8%となった。女性と男性のどちらかの質問以外の質問内容は以下のとおり。

質問：[1] 男性保育者の割合が、保育現場において増えることに①賛成ですか？②反対ですか？

この質問に対する回答は、①賛成31人（＝88.6%）②反対4人（＝11.4%）であった。そして、どちらともいえないと、保留する回答も1人あった。

質問：（1）賛成の理由についてお教えてください（アルファベットにいくつでも○をしてください）

- A 人的環境がより多様性豊かになり、子どもの成長発達にとってプラスになるから
- B 体を使ったダイナミックな遊びや指導が期待できるから
- C 男性と女性は視点が違うこともあるので、多角的に子どもを見ることができから
- D 父親的な存在として、より家庭に近い雰囲気保育を行えるようになるから
- E 力仕事や防犯、安全管理などの面で頼りにできるから
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（1）については、A＝24人、B＝11人、C＝19人、D＝8人、E＝17人、そしてF＝6人という回答結果となった。

Fの6人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・社会において男性と女性がいるのは、普通のことだからです。
- ・ジェンダーの視点からも、保母から保育者、保育士となったことから、男性保育者は有りだと思っています。
- ・賛成だが、乳児クラスはやはり、担任は女性の方が良いと思います。

- ・賛成ではありますが、当法人では採用する予定は今のところありません。一番大きな理由は、女性職場に疲れたり、収入面で行き詰まったりして長続きしないケースが多いからです。
- ・本当のところ、どちらとも言えない、を選びたいところです。賛成を選んだのもどちらかと言えばということからです。
- ・割合が増えすぎることは反対です。

質問：（２）反対の理由についてお教えてください
（アルファベットにいくつでも○をしてください）

- A 乳幼児の保育については女性の方が、適性があるし必要性があまり感じられないから
- B 保育は大胆さよりも細やかさが必要であり、細やかな指導は男性には不向きだと思うから
- C 男性は園に必要なだと考えるが、保育者でなくとも良いと思うから
- D 保護者の中に男性保育者に抵抗感がある方がいると思うから
- E 女性職場に疲れたり、収入面で行き詰まったりして長続きしないケースが多いから
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（２）についてはA = 2人、B = 1人、C = 4人、D = 4人、E = 2人、そしてF = 1人という結果となった。

Fの1人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・セクハラなどの誤解が生じる事が、多くなっている世論があるからです。

考察：質問〔1〕については、賛成が9割弱で、反対が1割強という結果であるが、（1）の回答から、多くの施設長が（賛成の77.4%）、子どもの成長発達にとってプラスになる視点から、男性保育者を捉えていることが明らかになった。また、賛成としていても、割合が増えすぎることに反対する意見や、やはり乳児クラスは女性保育者の方が、適性があるとする意見もあり、保育現場の責任者である施設長の考えは多様でありかつ慎重であると考えられる。また、（2）の回答から、反対の理由については選択肢CとDを共に4人全員が挙げているが、保育現場における男性保育者の存在を全面的に否定しているわけではなく、どちらかという、という消極的な反対であることがう

かがえる。そして、選択肢Dを全員が挙げていること、並びに他の選択肢の選択状況及び自由記述から、子どもの成長発達にとって重要な人的環境の多様性への貢献をはじめとして、男女共同参画やジェンダー平等の観点からの職員構成への寄与や、保育者集団における活性化に繋がる点等も含めて、男性保育者に対する理解を得ることについて保護者への対応が難しいことがわかる。

質問：〔2〕男性保育者の卵である男子学生に、養成校でしっかりと学んで欲しいことや内容等について、お尋ねします。

質問：（1）男女にかかわらず、保育者の卵として学生時代に学んでおいて欲しいことや内容等について、お教えてください（アルファベットにいくつでも○をしてください）

- A 保育の原理や方法、また子どもの成長発達について、体系的、実践的に学んで欲しい
- B ピアノや手遊び、絵本の読み聞かせ等の保育技術を幅広く身に付け、応用力も磨いて欲しい
- C 保護者対応がしっかりと出来るように、コミュニケーション力を十分に養って欲しい
- D 一般的な教養について、学生時代に出来るだけ身に付けるようにして欲しい
- E 社会人として必要な常識やマナーを身に付けることに留意して欲しい
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（1）については、A = 30人、B = 24人、C = 28人、D = 22人、E = 29人、そしてF = 7人という結果となった。

Fの7人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・子どもとかかわる人となる前に、自分が楽しいと思える活動を十分に経験して欲しい。
- ・児童虐待や体罰など、人権のことについても、しっかりと常識を学んでいただきたいと思います。また言葉づかいや仕事と自分の時間との気持ちの切り替えも、自分の中でしっかりとONとOFFの切り替えを身に付けていただきたいと思います。
- ・面接に来られて、ピアノが弾けなくても大丈夫でしょうかと質問される方が多くなりました。得手、不得手はありますが、努力して練習は重

ねて欲しいですね。

- ・明るくて協調性のある方は、職場でも保護者に対しても、対応がうまく出来ているように感じます。
- ・AからEの全ての項目がしっかりと出来ている人が望ましいです、しかし難しいことです。スキルを身に付けて働いていただくのは喜ばしいことですが、人と人とのつながりがもてる人、人と関われ話が聞ける、話が出来、そして話を汲み取ることが出来る、人間力のある人が良いと感じる。
- ・積極的、意欲的に行動する力を身につけておいて欲しいと思います。
- ・命の大切さや、保育者である自分自身が、自己肯定感がしっかり備わっている人であって欲しいと願います。

質問：（2）男子学生に保育者の卵として、学生時代にしっかりと学んでおいて欲しいことや内容等についてお教えてください。（アルファベットにくつでも○をしてください、そして特に男子学生に最も必要だと考える項目1つに◎二重丸を付けてください）

- A 保育の原理や方法、また子どもの成長発達について、体系的、実践的に学んで欲しい
- B ピアノや手遊び、絵本の読み聞かせ等の保育技術を幅広く身に着け、応用力も磨いて欲しい
- C 保護者対応がしっかりと出来るように、コミュニケーション力を十分に養って欲しい
- D 一般的な教養について、学生時代に出来るだけ身に着けるようにして欲しい
- E 社会人として必要な常識やマナーを身に着けることに留意して欲しい
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（2）については、A = 27人（二重丸8人）、B = 23人（同3人）、C = 25人（同2人）、D = 18人（同2人）、E = 28人（同7人）、そしてF = 6人という結果となった。

Fの6人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・各園色々なやり方、取り組みを行っているので自分に合った園を選び、その中で力を発揮できるよう前向きな姿勢で過ごして欲しいですね。

失敗を恐れないこと。最初から思うような保育は決して出来るわけがありません。

- ・積極的、意欲的に行動する力を身につけておいて欲しいと思います。 ※（1）と同意見
- ・命の大切さや、保育者である自分自身が、自己肯定感がしっかり備わっている人であって欲しいと願います。 ※（1）と同意見
- ・職場は女性が多いため、コミュニケーションが取りづらいとは思いますが、自分から話しかける等を心構えとして持って欲しいと思う。
- ・保護者対応も必要ですが、女性が多い職場なのでコミュニケーション力やメンタル力を付けてもらうことが大切だと思います。
- ・女性が多い職場で男性が働くことは、どちらも気を遣う事が多いことかと思えます。それも互いにとって良い意味での距離感があり、子どもたちを保育するうえで、気づきや視点の違いに発見したり、気づいたりすることが出来るのでは、と思っています。ただ、今まで男性保育者と一緒に働いてきた中で思うことは、保護者対応、特に母親と話すことが多いなか、なかなか伝えきれない、母親の気持ちに寄り添えない部分が難しいと感じている。
- ・男性保育者については基本的には賛成ですが、今まで何名かの男子実習生を受けた中で感じている事がいくつかある。まず保育は、子どもが好きというだけでは難しい、ということを理解して欲しい。もちろん女子学生にも同じことがいえるが、母性を考えると男子学生にはより多くの努力が必要になると思う。残念なことは一部だけだと思うが、一般的な会社で働くのは嫌なので、子どもと遊ぶことが主になる仕事なら楽だろうという気持ちの方もいたことです。また、実習中居眠りをしたり、実習記録の提出が遅れたり、欠席が多かったり、ということがあるのは男子学生の割合が高かったです。男性の方が秀でている面もあると思うので、体力面、精神面でかなり大変であるにもかかわらず収入面は少ないという実際の職務状況であるが、ぜひ保育者になるんだという覚悟と意欲を持って頑張っておいて欲しいと思います。

考察：質問 [2] の（1）については、ほぼ全員の施設長が、AとEを男女にかかわらず保育者の卵として学生時代に学んでおいて欲しいことや内

容等に選んでいて、保育・幼児教育の基本的事項全般の学びと社会人としての常識やマナーを特に重視していることがわかる。このことは、保育者に限らず若者世代全般に望まれていることであるといえるが、特に保育者は新型コロナウイルスの流行下で、現代社会におけるエッセンシャル・ワーカーとしての認識が深まったこともあるため、施設長方による期待や激励も込められた結果であると考えられる。また、専門職として職責を果たすためには周囲と協調し協働していくことが当然のことであり必要不可欠である為でもあると考えられる。Cの保護者対応に必要なコミュニケーション力を十分に養って欲しいという内容も、全く同様であろう。これはFにおいて複数の施設長がコミュニケーション及び、話すことすなわち意思疎通に言及していることから明らかであると考えられる。

質問（2）については、多くの施設長がAとEを男子学生に学生時代に学んでおいて欲しいことや内容等に選び、（1）と同様に保育・幼児教育の基本的事項全般の学びと社会人としての常識やマナーを特に重視している結果となった。そして2重丸についてもEとAが多数となった。これは、男女にかかわらず保育学生全般にとって学んで欲しいことは同様であることを示しているといえる。つまり施設長方は、男女にかかわらず求めている保育者としての人材像は同一であるといえよう。保育者養成にかかわる授業やガイダンス等において、教授内容や指導の中身に反映し生かすようにしていくことが必要であると考えられる。Fの記述内容からは、失敗を恐れず、積極的意欲的に、覚悟と意欲をもって頑張りたい、というような施設長の方々からの男子学生へのエールにも似た内容の記述が多くあった。そして同時に、命の大切さや自己肯定感、メンタル力といった、男女にかかわらず保育学生に身に着けて欲しいと求める認識や能力などの他、母性や母親の気持ちに寄り添うことといった、男子学生及び男性保育者にとっての大きなテーマ並びに課題も示唆された。

【2】男性保育者への質問紙調査についての結果と考察

本学の近隣（大阪市を含む隣接7市）の園35ヶ所に在職する男性保育者に質問紙を郵送し調査に協力を依頼。29人（正規職員28人、準職員1人）

より回答をいただき、回収率は82.8%となった。正規職員とその他のどちらかの質問以外の質問内容は以下のとおり。

質問：[1] 男性保育者の意義や役割、メリット等についてご回答ください

質問：（1）意義や役割、メリット等に関して、そうだと思うもの、当てはまると思うものについてお教えてください（アルファベットにいくつでも○をしてください、そして最も大切だ、重要だと考える項目1つに◎二重丸を付けてください）

- A 人的環境がより多様性豊かになり、子どもの成長発達にとってプラスになる
- B 体を使ったダイナミックな遊びや指導ができる
- C 男性と女性は視点が違うこともあるので、多角的に子どもを見ることができる
- D 父親的な存在として、より家庭に近い雰囲気保育を行えるようになる
- E 力仕事や防犯、安全管理などの面で頼りになる
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（1）については、A=22人（二重丸9人）、B=20人（同4人）、C=16人（同2人）、D=10人（同3人）、E=23人（同7人）、そしてF=2人という結果となった。

Fの2人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・男性や女性に関係なく、その保育者の個性が生かせることが大切です。父親がいない家庭の子どもにとっては、男性と触れあう機会になるので良いと思います。
- ・ダイナミックな遊びや力仕事は、必ずしも男性の役割、メリットというわけではないと思う。パワフルな女性もいれば、おとなしめの男性もいるので。

質問：（2）課題や留意点等に関して、そうだと思うもの当てはまると思うものについてお教えてください（アルファベットにいくつでも○をしてください、そして最も大きな課題や留意点だと考える項目1つに◎二重丸を付けてください）

- A 乳幼児の保育については女性の方が適性があるし、男性の必要性があまり感じられない
- B 保育は大胆さよりも細やかさが必要であり、細やかな指導は男性には不向きだと思う
- C 男性は園に必要だと考えるが、保育者でなくても良いと思う
- D 保護者の中に男性保育者に抵抗感がある方がいると思う
- E 女性職場に疲れたり、収入面で行き詰まったりして長続きしないケースが多いと思う
- F その他（自由記述：具体的にご記入ください）

以上の質問（2）については、A = 8人（二重丸2人）、B = 7人（同2人）、C = 2人（同0人）、D = 20人（同5人）、E = 22人（同8人）、そしてF = 5人という結果となった。

Fの5人の記述内容（要旨）は、次の通り。

- ・男性、女性で分類して考えるよりかは、一人の人間、保育者として、どのように子ども、そして保護者にかかわるのかを考えることが必要。
- ・0歳児クラス、1歳児クラスを担当したことがないし、実際に言われたこともないが、0歳児の子どもを受け入れる際に、保護者に抵抗感があるかなど、感じることもある。
- ・男性が働きやすい職場というのは、女性にとっても働きやすい職場なんです。それ故に、働きやすい職場づくりが大切です。保育者の労働条件がよくないですね。賃金も低いので女性も辞める人が多いのが現状です。やはり保育者の処遇改善が必要です。
- ・保護者の男性保育者に対する抵抗感については男性保育者の悪いニュースの後は特にそう思う。
- ・男性保育者が少ないこと、長続きが難しいことは、事実だと思います。10年の間に共に働いたのは5名で、うち3名は退職されています。

考察：質問[1]の(1)については、8割弱を占める男性保育者が、AとEを選んでいて、人的環境が多様性豊かとなり子どもの成長発達にプラスになること、力仕事や防犯、安全管理などの面で頼りになることを一番の意義や役割、メリットとしていることが明かになった。これは施設長の考える意義や役割等とほぼ同じであるが、施設長

はAの次にD、すなわち多角的な視点への貢献を多く選択していて、その次がEであったので、両者に若干だが差異があることが分かる。つまり施設長の方が、より子どもにとっての意義や役割を男性保育者に求めているといえる。

質問（2）については、多くの男性保育者がEとDを課題や留意点等に当てはまると思うものを選び、特にEについては75.8%、つまり約8割弱の男性保育者が課題や留意点等としている結果となった。そして2重丸についてもEが最多数となった。そして、Fの複数の記述にも、Eと同様の内容や関係する記述が見られ、理由は様々であると考えられるが、長続きしないケースが少なくないことが分かる。特に男性が働きやすい職場は、女性にとっても働きやすい職場であり、働きやすい職場づくりが大切、という記述は、全くその通りであると頷ける。またDについても、Eの次に多数の68.9%、つまり7割弱の男性保育者が課題や留意点等としている結果となった。Fの記述に、男性保育者の悪いニュースの後は、保護者の抵抗感を感じることもあると思う、との趣旨の記述があるが保育・幼児教育の具体的な職務内容にかかわる課題の一つであると考えられる。

【3】男性保育者の保育者効力感についての質問紙調査についての結果と考察

保育者効力感とは、「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念」と定義されている（三木・桜井 1998）今回は、園で実際に保育・幼児教育にあたっている男性保育者が、保育者効力感をどの程度持って自らの保育実践に取り組んでいるのかを明らかにすることを目的として調査を行なった。

1. 対象：本学の近隣園35ヶ所に在職する男性保育者
2. 実施時期：令和3年10月下旬から11月上旬
3. 実施方法：三木と桜井が作成した保育者効力感尺度を使用
4. 結果と考察

本学の近隣園35ヶ所に在職する男性保育者に保育者効力感調査票を郵送し調査に協力を依頼。29人より回答をいただき回収率は82.8%となった。

保育者効力感調査票の各項目は、以下の通りで、5.はい（全くそう思う）～1.いいえ（ぜんぜんそう思わない）の5件法で尋ねた。そして、結果について各得点を、5 = +2、4 = +1、3 = ±0、2 = -1、1 = -2、として各項目について回答者29人の総合得点を算出した。

1. 私は、子どもの年齢に応じてわかりやすく指導や援助を行うことができる
2. 私は、子どもの発達や能力に応じた課題を出すことができる
3. 保育プログラムや計画が急に変更された場合でも、私はそれにうまく対処できる
4. 私は、どの年齢の担任になっても、うまくやっていたいける
5. 私のクラスにいじめがあったとしても、うまく対処できる
6. 私は、保護者に信頼を得ることができる
7. 私は、子どもの状態が不安定な時にも、適切な対応ができる
8. 私は、クラス全体に目をむけ、集団への配慮も十分できる
9. 私は、1人1人の子どもに適切な遊びの指導や援助を行うことができる
10. 私は、子どもの活動を考慮し、適切な保育環境（人的、物的）に整えることに十分努力できる

保育者効力感尺度項目の得点

	項目	総合得点
	1.	+12
保 育 者 効 力 感 尺 度 項 目	2.	+11
	3.	+12
	4.	+5
	5.	+10
	6.	+14
	7.	+19
	8.	+12
	9.	+22
	10.	+21
	M = +13.8 SD = 5.06	

考察：男性保育者の保育者効力感は、総合得点（平均+13.8）から全体として高い水準にあるという結果となった。つまり今回、調査にご協力いた

だいた男性保育者の方々は、自信をもって乳幼児の保育に当たっている方が、全般的に多いということができる結果となった。そして、それ故に保育・幼児教育についての手ごたえや保育者としての働き甲斐についても、同じく充分に感じている方が多いと推察することができる。特に、項目9.についてはマイナス得点者が1人であり、同じく項目10.については2人という結果であった。従ってこの二つの項目の内容である、子どもの遊びの指導や、保育・幼児教育の環境構成の設定及び整備について、男性保育者の方々は総じて自信を十分にもっていることがうかがえる。

しかしその反面、項目4.については、全項目の中で唯一、ひと桁の得点という結果となった。乳児クラス、つまり0・1・2歳児の担任については、産む性ではない男性特有の乳児の保育に対する苦手意識や、男性保育者に対する抵抗感がとりわけ乳児の保護者に多いということの影響が、主な要因と考えられる。その為、10項目中で得点が最も低いものとなり、男性保育者の苦手とする分野及びウィークポイントとして際立ってしまう結果となったと考えられる。

5. 今後の課題と展望

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第2条）とされ、そして、男女共同参画社会を実現するための5つの柱をその基本理念として掲げている。その一つが、「社会における制度または慣行についての配慮」であり、「固定的な役割分業意識にとられず、男女が様々な活動ができるように社会の制度や慣行の在り方を考える必要があります」（内閣府 男女共同参画室）と、されている。

つまり、性別にかかわらず男性も女性も、その個性と能力を十分に発揮することができるような社会であるといえる。そのような男女共同参画社会の実現に向けて、とても重要な役割を男性保育士が担いつつある、と言えるのではないだろうか。

また、父親の育児参加への意識の向上への貢献や、離婚率の上昇とその結果増加している母子家

庭の乳幼児に対する保育所での父性的存在、及びそのロールモデル²⁾としての重要性といった今日的な問題や課題においても、男性保育者の園における役割や機能は、ますます増大しているといえよう。

男女共同参画に関する国際的な水準を示す、ジェンダー・ギャップ指数（GGI：ジェンダー間の経済的参加度および機会、教育達成度、健康と生存、政治的エンパワーメントの4種類の指標を基に格差を算定してランキング付けしている「男女格差レポート2021」世界経済フォーラム）は、先進国の中では最下位であり、156国中120位の極めて低い水準となっている。特に、国会議員、政治家・経営管理職、教授・専門職、高等教育等、の分野で評価が著しく低い状態が続いていることは周知の事実である。その他の男女共同参画に関する国際的な指数についても先進諸国の中において低い水準にあり、日本社会は男女間のギャップ、すなわち性別による格差や不平等が大きい状態が、依然として続いているといえるのである。

保育・幼児教育の現場、すなわち園においてはその圧倒的といえる人的な割合からみて、そしてまた男女共同参画の観点からみても、我が国では女性に頼り過ぎ偏っている状況であるといえる。換言すれば、女性のもつ母性性に依存し頼り過ぎている状態であると、いえるのではないだろうか。その点を是正するためにも、さらに多くの男性保育者が、園に必要であるといえる。

課題は多くあるが、男性保育者が勤務する園が本学の近隣園においても少なくない状況となっている実態があることが分かり、男女共同参画の観点からも少しずつであるが進展しているといえること、そして多くの男性保育者が自信をもって保育実践に取り組んでいることが今回の調査研究を通じて明らかになった。また、現場の責任者である施設長の方々の男性保育者の役割や機能に関する捉え方や、学生時代に学修し習得することを期待する具体的な内容やスキルについても、明らかになった。

これからは、子育てや保育・幼児教育における男性と女性の性差へのこだわりから離れた、父性でもなく母性でもない、人間がもっている子どもを健やかに育てる「育児性」（大日向、2000）や、また、次世代の主体を育み、育てていくことがで

きる能力である、「次世代育成力」（齋藤幸子、星山佳治、宮原忍、2004）という共通の土台に立った、柔軟で多様性豊かな保育・幼児教育が求められていくのではないだろうか。今後の研究課題としたい。

引用文献

- 1) 国立教育政策研究所 編 2021「幼児教育・保育の国際比較－OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書 第2巻－」明石書店
- 2) 数井 みゆき 編 2021「養育者としての男性」ミネルヴァ書房

参考文献

- 1) 国立教育政策研究所 編 2021「幼児教育・保育の国際比較－OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書 第2巻－」明石書店
- 2) 数井 みゆき 編 2021「養育者としての男性」ミネルヴァ書房
- 3) 小堀 哲郎 編 2011「社会のなかの子どもと保育者」創成社
- 4) 諏訪 きぬ 監修 2011「保育における感情労働－保育者の専門性を考える視点として－」北大路書房
- 5) 全国男性保育者連絡会事務局 編 1997「保父と呼ばないで－これからのゆたかな保育のために－」かもがわ出版
- 6) 小崎 恭弘 著 2005「男性保育士物語」ミネルヴァ書房
- 7) 今津 太陽 著 2018「男性保育士の社会をちょっとかえてみた話」ギャラクシーブックス
- 8) 三木 知子、桜井 茂男 1998「保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響」教育心理学研究第46巻第2号 pp.83-91
- 9) 中田 奈月 2000「男性保育者のライフコース：キャリアの実態を通して」奈良女子大学社会学論集 Vol.7 pp.67-78
- 10) 中田 奈月 2001「男性保育者のライフコース：コーホート分析」奈良女子大学社会学論集 Vol.8 pp.51-68
- 11) 富田 昌平、小野 文子 2011「男性保育者をめざした学生たちは今どうしているのか？（1）－保育専攻を卒業した男子学生への質問紙調査から－」中国学園紀要第10巻 pp.97-108
- 12) 佐々木 由美子、大谷 真理子 2016「保育者はどのように育つのか－保育者効力感および 保育者アイデンティティの研究動向と課題－」東京未来大学保育・教職センター紀要 第3号 pp.61-69

- 13) 西川 晶子 2018「男性保育者のキャリアコースと心理的適応」信州豊南短期大学紀要35号 pp.38-54
- 14) 矢野 円郁 2020「男性保育士に対する態度とジェンダー・ステレオタイプとの関係：保育士の専門性認識を高めるために」慶応義塾大学三田哲学会 哲学144号 pp.219-238
- 15) 千葉市 2017「千葉市立保育所男性保育士活躍推進プラン～男性も女性も心から子育てを楽しめる保育所を目指して～」
<https://www.city.chiba.jp/kodomomirai/kodomomirai/unei/documents/danseihoikusi.pdf>

－ 2021.11.26受稿、2021.11.29受理－

A Study on the Current Situation and Issues of Male Childcare Workers
-From a questionnaire survey to facility managers and male childcare workers-

Hideki Hase

Shijonawate-gakuen Junior College

In this paper, in order to understand the current situation and issues of male childcare workers, we conducted a questionnaire survey of the facility managers of childcare sites in each city near the university and male childcare workers, and analyzed them. Specifically, we conducted a questionnaire survey of the nursery school (garden) that accepts many graduates of our university and the facility manager of the Centers for Early Childhood Education, that is, the person in charge of the nursery school, and the percentage of male nursery teachers is high. We asked specifically about the pros and cons of increasing in the field of childcare, as well as the content and skills that we would like you to learn and acquire at the training school, including the significance and role of male childcare workers, and grasp and analyze the current situation. Added consideration. Then, we conducted a questionnaire survey of male childcare workers who are actually involved in childcare in the garden, asked about their significance and merits, including issues, and also conducted a childcare worker efficacy survey for analysis. I tried to consider it. As a result, it was found that many facility managers wanted to increase the number of male childcare workers, and it became clear that there were issues regarding the learning content and acquisition skills expected of male students and training schools. It was also clarified that many male childcare workers have a sufficient sense of efficacy as childcare workers and work in childcare.

* In this paper, nursery teachers and certified childcare teachers are used as nursery teachers.

Key words : Gender equality, roles and functions of male caregivers, caregiver efficacy, gender-equal society